

# UCL-Japan Youth Challenge 2019

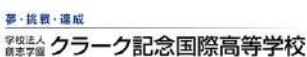
19<sup>th</sup> – 28<sup>th</sup> July 2019

UCL (University College London) & University of Cambridge



**日本側参加校：**愛知県立一宮高等学校、愛知県立刈谷高等学校、大妻高等学校、鹿児島県選抜、京都聖母学院高等学校、クラーク記念国際高等学校、清教学園高等学校、聖心女子学院、洗足学園高等学校、滝高等学校、東京芸芸大学附属国際中等教育学校、福島県選抜、明星高等学校、立教英国学院、立命館宇治高等学校、立命館守山高等学校（50音順）

**英国側参加校：**Bacon's College, Blackfen School for Girls, Brentwood Ursuline Convent High School for Girls, Bullers Wood School, Campbell Harris, The Champion School, The Compton School, Dartford Grammar School, Dwight School London, Esher College, Henrietta Barnett School, The Holt School, James Allen's Girls' School, Kingsmead School, The Kingston Academy, Lady Eleanor Holles School, London Academy of Excellence, Merchant Taylors' School, Newstead Wood School, Riddlesdown Collegiate, Ruislip High School, South Hampstead High School, St. Olave's School Orpington, St Catherine's School, St Dominic's Sixth Form College, Stephen Perse Foundation, West London Free School Sixth Form, Woodhouse College（アルファベット順）



Today's Work, Tomorrow's Heritage



EDUCATIONAL RESEARCH FOUNDATION



# UCL-Japan Youth Challenge 2019

はじめに

皆様のご支援のおかげで、今年で第5回目となる UCL-Japan Youth Challenge 2019 を成功裏に開催することができました。誠にありがとうございます。今年は過去最高の参加人数を記録し、合計 16 校からの参加がございました。初参加の高等学校も多く、日本各地からご参加いただきました。参加者の内、約 4 割が英国側の生徒で日本語学習者や日系人からの応募も多く、在外日本人の日本との繋がり、日本の高校生との交流を強めたいという気持ちを感じました。

今年より、国際交流基金（Japan Foundation）との共同開催となり、益々のプログラム内容充実を図ることができ、大変感謝しております。

今年もスポーツイベントやバーベキューにはじまり、日英の高校生の交流を深めるためのイベントを数多く開催いたしました。10 日間のプログラム期間中、ケンブリッジ大学（University of Cambridge）や UCL（University College London）の多くの講師陣による講義、ワークショップを行い、学術的にも非常に実りあるプログラム内容となりました。多数の協力者によるご支援をいただき、一般公開イベントの映画上映会と公開シンポジウムにも多数の来場者を迎えました。7 月 23 日には映画上映会でロンドンを拠点に活動する梶岡潤一氏が監督、脚本、主演を務めた作品「インパール 1944」を上映し、梶岡氏の講演会を開催いたしました。7 月 26 日に開催した公開シンポジウム「みんなのためのアクセシビリティ：スポーツ、AI、ロボット工学」ではアクセシビリティをテーマに多くの方々から講演いただきました。ご協力いただいた方々には誠に感謝しております。

本プログラムには以下の 6 つの目的がございます。

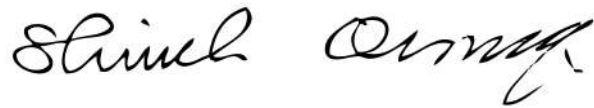
1. グローバルな視点で社会問題に興味をもつ
2. 世界トップクラスの大学の講師陣による講義を体験する
3. 将来世界トップクラスの大学進学への道が開ける
4. 英語をコミュニケーションツールとして使う
5. 英国の学生との意見交換を行う
6. 自立・自主性の確立、挑戦するマインドの構築

ご参加いただいた日本の高校生はみなさん高い英語力があり、自分自身の言葉で質問、議論する積極性とコミュニケーション力の高さを見ることができました。10 日間の短いプログラム期間中に英国の高校生と積極的に交流を図り、良好な交友関係を結ぶとともに、英国の高校生の勉強姿勢、志向、将来の目標等に感化されている様子も垣間見られました。本プログラムの目的は果たせたかと思えます。

今まで本プログラムに参加した日本の高校生の中から、毎年数人が欧米の大学に進学を果たしています。今年参加いただいた高校生からも、この経験を今後の勉学、進路、成長に役立て、世界を視野に入れて活躍されることを願っております。

末筆ではございますが、本プログラムは非常に多くの参加者やご支援、ご協力により成り立っています。大変感謝しております。来年以降もこの活動を通し、より多くの日英の高校生に世界を体験いただけたらと考えています。

今後ともご支援、ご協力賜りますよう何卒よろしくお願いいたします。



Professor Shin-ichi Ohnuma 大沼 信一  
UCL Institute of Ophthalmology  
UCL-Japan Youth Challenge 実行委員長  
UCL's Japan ambassador

## 支援（協賛・後援団体・個人）

グレイトブリテン・ササカワ財団、一般財団法人日英機構、立教英国学院、一般財団法人自治体国際化協会ロンドン事務所（CLAIR）、在英日本国大使館、日本学術振興会、日本スポーツ振興センター、福島県、鹿児島県、参天製薬株式会社、大塚製薬株式会社、Astex Pharmaceuticals、IHI、清水建設、株式会社良品計画、富士フイルム株式会社、日本ハム株式会社、一般財団法人総合教育研究財団（ERF）、株式会社川内美登子・植物代替療法研究所、環太平洋大学、IPU New Zealand Tertiary Institute、クラーク記念国際高等学校、UCL、UCL Grand Challenges、UCL Global Engagement Office、UCL Academy、University of Cambridge、JAPAN AT UK LIMITED、UCL-Japan Youth Challenge Committee、在英日本人学生ボランティア、ケンブリッジ日本人会、浅井将雄

## 活動とプログラム内容（2019年7月19日ー7月28日）

### 1日目 ― 2019年7月19日（金）

日本側参加者がイギリスに到着  
立教英国学院に宿泊

### 2日目 ― 2019年7月20日（土）

英国側参加者が立教英国学院に到着、日本側参加者と合流

開会式：大沼教授によるスピーチ、生徒と参加校の紹介、プログラム参加中の安全・注意点等の確認を行なった





スポーツイベント：参加者の交流を図るため、立教英国学院の広大な敷地で英国発祥のスポーツを含む、フットボール、テニス、キックベース、バレーボールを行なった

英語討論会：スポーツイベントと並行して英語教師による英語での討論をゲーム形式で行い、英国側参加者と日本側参加者が英語で自然にコミュニケーションを図れる機会を設けた



バーベキュー：スポーツと英語討論による交流後、更に交流を深めるため、食事の楽しい時間を共有、協賛の日本ハム株式会社よりソーセージをご提供いただき、美味しい日本のソーセージに舌鼓を打った





バーベキュー終了後、日本側参加者全員と英国側参加者の一部は立教英国学院に宿泊し、英国の寄宿舍での生活を体験した

### 3日目 ― 2019年7月21日(日)

専有バスにて立教英国学院からケンブリッジに移動

ケンブリッジ到着後、グループに分かれケンブリッジ市内観光とパンティングで川下りを楽しんだ





夕食：ケンブリッジ市内観光後、ケンブリッジ大学 Queens' College の趣ある佇まいと内装の The Old Hall でフォーマルディナーを楽しんだ





Meet the Cambridge : 夕食後、ケンブリッジ大学に在学中の学生による講義と座談会をケンブリッジ大学 St John's College にて行った



#### 4日目 ― 2019年7月22日(月)

ケンブリッジ大学 King's College を見学後、グループに分かれケンブリッジ市内観光を楽しんだ





午後の講義：ケンブリッジ大学 Hughes Hall にて 4 人の講師陣から講義を受け、参加者からは積極的に質問が飛び交った

**Professor John Coates**  
University of Cambridge  
Emmanuel College Life Fellow  
Emeritus Sadleirian Professor of  
Pure Mathematics



**Dr Caroline Trotter**  
University of Cambridge  
Principal Research Associate,  
Department of Veterinary Medicine  
Academic Director Cambridge Africa,  
Department of Pathology  
Honorary Epidemiologist at  
Public Health England

**Dr Mark Ainslie**  
University of Cambridge  
EPSRC Early Career Fellow and  
Fellow, King's College



**Professor Masashi Narita**  
University of Cambridge  
Group Leader,  
Cancer Research UK Cambridge Institute

リフレクション：講義終了後、夕食前にその日学んだこと、理解が難しかったことを挙げ、理解を深めた



夕食：講義会場と同じケンブリッジ大学 Hughes Hall の Dining Hall にて夕食を楽しんだ





5日目 ― 2019年7月23日(火)

専有バスにてケンブリッジからロンドンに移動

ワークショップ：The UCL Academy の地理教師 Mr Oliver Calmonson を講師に招き、「How can we solve a global health issue?」を議題にワークショップを行った



映画上映会：一般の方々を招き、ロンドンを拠点に活動されている梶岡潤一氏が監督、脚本、主演を務めた映画「インパール1944」を上映、その後梶岡氏による講演会を行った



リフレクション：夕食後にその日学んだこと、理解が難しかったことを挙げ、理解を深めた



リフレクション終了後、ロンドン大学学生寮 International Hall に宿泊し、大学寮での生活を体験した



6日目 — 2019年7月24日(水)

UCL キャンパス内をグループに分かれ見学した



午前の講義：「Physics & Life」を議題とした講義を受けた



Dr Jenny Brookes  
UCL

Senior Research Associate  
London Centre for Nanotechnology  
Faculty of Maths & Physical Sciences



Grand Challenge Workshop : 「Accessibility for All/みんなのためのアクセシビリティ」を議題にワークショップを行い、様々な視点からの活発な意見交換が見受けられた



27



- CREATE DEVICES AND TECH THAT ARE ELDERLY-FRIENDLY



28



29





ワークショップファシリテーター  
Ms Amanda Scott  
facilitate this!



スピーカー  
Dr Giulia Barbareschi  
UCL  
Researcher in Assistive Technology  
Global Disability Innovation Hub

グループ毎にまとめた意見をイラストレーターがポスターにまとめ、シンポジウムでの発表に備えた



## 7日目 ― 2019年7月25日(木)

午前：日本側参加者、英国側参加者、日本側引率教員に分かれ、それぞれが授業・講義を受けた

日本側参加者：英国の大学への進学方法、UCL ファウンデーションコースの紹介を受け、英語の授業で英語力を磨いた



英国側参加者：日本のフェローシップ紹介後、日本語の授業を初級者・上級者に分かれて受講した





日本側引率教員：英国、日本、タンザニアの教授法を比較討論した



午後：2012年ロンドンオリンピック会場の地に建設された「UCL East」に移動し、UCL Eastの紹介後、講義を受けた



**Mr Tim Bodley-Scott**  
UCL  
Business Development and  
Marketing Manager

**Dr David Selviah**  
UCL  
Reader in Optical Devices Interconnects  
Algorithms and Systems



**Mr Takahiro Tsunoda**  
University of Oxford  
PhD candidate



座談会：英国の大学に進学、卒業したスピーカーから英国の大学に関すること、経歴、英国の大学に進学するメリット等を高校生に伝え、質問を受けた





## 8日目 ― 2019年7月26日（金）

午前：日本側参加者、英国側参加者、日本側引率教員に分かれ、それぞれが授業・講義を受けた

日本側参加者：英語の授業を受講した

英国側参加者：日本語の授業を初級者・上級者に分かれて受講した

日本側引率教員：英国の高等学校教育における第一人者であり、世界の生涯教育にも関与している Professor Paul Grainger による講義「Implications of the Rise of AI in Further Education and Society」を受講した



**Professor Paul Grainger**  
UCL Institute of Education  
Head of Enterprise and Innovation  
for the Department of Education,  
Practice and Society (EPS)



シンポジウム：一般公開のシンポジウムでは「みんなのためのアクセシビリティ：スポーツ、AI、ロボット工学」を議題に講演者を招き、Grand Challenge Workshop で高校生が学んだことを発表した





シンポジウム終了後、レセプションが開かれ、日本食、福島県産の日本酒、名産品等がふるまわれた

レセプション終了後、リフレクションが行われた





9日目 ― 2019年7月27日(土)

グループに分かれロンドン市内観光、ショッピングを楽しんだ





修了式：ロンドン市内観光後、修了式を行った

一人一人、壇上で大沼教授より修了証を授与され、英語でプログラムの感想を述べた、感動の修了式となった



おわりに

本プログラムは述べ 50 人以上のボランティアによりサポートされています。その中には英国で学ぶ日本人留学生も多数含まれています。日本側参加者に対しては、どういう経緯で日本から英国に留学するに至ったか、その実体験を参加者に伝えてもらい、海外の大学に進学するという進路を含め、本プログラムが転機となれどと考えています。また、先輩方が伝えてくれたボランティア精神を受け継ぎ、次の世代が本プログラムに参加する際に、自身が体験したことを伝え続けていただきたいと実行委員会一同、心より願っております。

日本側の高等学校の引率でご参加いただいた先生方に対しては、日英の教育制度や授業運営の違いを現役の教員、講師陣、世界トップレベルの教育者、研究者と交流を持つことで体感いただき、来たる 2020 年度教育改革の参考となることを切に願っております。

## UCL-Japan Youth Challenge 2019

[ucl-japan-youth-challenge.com](http://ucl-japan-youth-challenge.com)

2019 年 7 月 19 日—28 日

【お問い合わせ窓口】

**JAPAN AT UK LIMITED**

8A Station Parade, Uxbridge Road, London W5 3LD

担当：宮原 継享

[hmiyahara@japanatuk.com](mailto:hmiyahara@japanatuk.com)

Tel: +44 (0)20 8992 9302